

70名の遺愛吹奏楽局が、 11年連続総合グランプリ受賞!!

1月26日（日）に函館市民会館大ホールで開催された第12回道南地区吹奏楽コンテストで、高校大編成の部門および全部門含めての総合グランプリ（最高賞）を遺愛吹奏楽局が受賞しました。11年連続でした。

今回は、市立函館高校・北海道函館西高等学校、函館白百合学園中学高等学校が112名の合同チームを作り、遺愛の11連覇を阻止すべく挑んできました。

遺愛70名の局員の皆さんがどのような演奏をしてくれるか、ドキドキしながら市民会館大ホールに向かいました。

15:45から遺愛女子高校の演奏が始まりました。曲は課題曲「栄光をたたえて」（内藤淳一作曲）、自由曲「アルメニアンダンス パートⅠ」（アルフレッド・リード作曲）でした。局員は高久先生の指揮に本当に集中して演奏していて一体感をととても感じました。メリハリもきいていて、曲のイメージを全員で共有しているのがわかりました。もちろん、美しい旋律を見事に奏でて、聴く者に音楽の素晴らしさがとても伝わっていました。課題曲も自由曲も、この時期としては最高レベルの演奏でした。

トリを務めたのは、3校合同チームでした。市立函館高校吹奏楽部の顧問である澤邊先生の指揮で、課題曲「高度な技術への指標」（河辺公一作曲）、自由曲「アスファルト・カクテル」（ジョン・マッキー作曲）を演奏しました。

去年は、市立函館高校と函館西高校2校の合同チームとして初出場でしたが、合同チームとはとても思えないほど一体感があり、人数の多い遺愛が何とか逃げ切ったという印象でした。それだけに今年は3校合同で単独の遺愛を42名も上回る出場人数に11連覇は相当厳しいなと思っていました。

今回の合同チームの演奏は、予想通り最初から人数をいかしたパワフルな演奏で、特に男子生徒を含むパーカッションの音量が衝撃的でした。ただ、他のパートがその勢いの凄さのために印象が薄れ、人数の多さが逆に裏目に出て、



指揮者との一体感が足りなかったように感じました。

結果としては、審査員5人全員が遺愛を1位としたようで、11年連続で高校大編成グランプリ受賞、小中高通しての全部門でも1位の総合グランプリを受賞しました。

2025年1月27日（月）